

平成30年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	芸能を用いた地域交流・地域活性化推進事業
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 准教授・玉村 恭
3 学外の連携機関等	(連携機関等名) NPO 法人佐渡芸能伝承機構 (担当者職名・氏名) 代表・松田祐樹
4 事業の趣旨・目的	<p>近年、地方における人口減少、それに伴う共同体の縮小が社会問題として話題に上がることが多いが、新潟県(特に中山間地域)においても、地域をどのように運営していくか、どのような活性化の方策が有効であるかを探ることが求められている。新潟は他方、伝統的な祭礼が今も行われ、そこで「鬼太鼓」や「里神楽」が演じられるなど、伝統芸能が豊かに息づく「芸能の郷」である。様々な立場から様々な活性化の策が提出されているが、そのような地域の特性を生かした事業を企画・立案することも有用なのではないか。本事業はそのような見通しのもと、芸能を媒介にした地域交流・地域活性化活動を、新潟(特に佐渡地域)の人々と協働して企画・立案し、実施する。</p>
5 事業活動報告	<p>佐渡島において、地域住民と大学関係者、地域住民同士、異なる地域の人々の間での交流を促し、にぎわいの創出を目指す事業を二つ行った。一つは、2018年7月20～22日に佐渡市椿尾集落で行った、地域の文化資源(能舞台とその周辺施設・資源)を活用した交流事業であり、もう一つは、同10月5～8日に同市黒根集落で行った、地域の祭礼活動(小田原神社例大祭)の企画・運営を、地域住民と大学関係者(教員、学生)、地域外関係者(行政関係者等)が共同して行う取り組みである。</p>
6 本事業で得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 椿尾集落の能および能舞台、黒根集落の鬼太鼓など、地域の資源(芸能、集落施設等、地域住民の文化活動とそれを支える施設・資源)を生かした事業を企画することで、地域の特性に合った交流活動、活性化推進活動を行うことができた。 ・ 担い手の不足が懸念される集落活動(施設の維持・管理、祭礼等行事の企画・実施と継承)に対するサポートを行うことで、地域活動の継続に寄与した。 ・ 多くの地域住民、周辺住民の参加を得たことに加え、行政関係者など地域外からの参加・協力もあり、「芸能を媒介にした地域交流・地域活性化事業」が、人の輪やつながりを生み出し、広げていく可能性を持つことが示された。また、そうした活動を報告会等の場で発信することで、活性化のためのアイデアの蓄積、機運の高まりをもたらすことに貢献した。
7 その他 (成果物等の名称)	<p>本事業での成果を含めた今後の地域活動の方向性と可能性について、「平成30年度大学と連携した地域活動報告会」(2019年2月3日@あいぽーと佐渡)で口頭発表を行い(発表タイトル「椿尾で／の〈地域活性化〉を考える」)、『平成30年度大学等と連携した地域活性化実証事業 大学と連携した地域活動合同報告会報告書』でも報告を行った。</p>